

我が社の得意技 ⑤0 手すき和紙森田屋(石田)

活かされ続ける周桑手すき和紙を目指して

周桑手すき和紙は、市西部の国安地区・石田地区で生産され、その約200年続く歴史から、愛媛県指定伝統的特産品や西条市指定伝統的特産品に指定されている。現在、当地域では「奉書紙」と呼ばれる白くしわのない厚手の和紙や、「檀紙」と呼ばれるちりめん状のしわが特徴的な和紙などが作られており、全国有数の生産量を誇っている。

しかし、手すき和紙を取り巻く環境は、時代とともに大きく変化してきた。機械すきの普及や、海外製品の輸入量増加による国内需要の減少により、昭和20年代ごろに110軒ほどあった周桑手すき和紙生産者の数は、現在7軒まで減少した。さらに、職人の高齢化と若い世代の担い手不足から、存続が危ぶまれている。

2000年の歴史を受け継ぐ若手職人

そうした中、石田地区で手すき和紙「森田屋」を営む森田高昌さん・美希さん夫婦が、新たな取り組みに奮闘している。30代という若さで周桑手すき和紙振興会の会長を務める



▲よりよい和紙づくりを目指し奮闘する森田高昌さん

高昌さん。幼少期からものづくりへの憧れが強かった高昌さんは、大学在学中に国安地区の和紙づくりに出会い、伝統的な手すき和紙職人の道に進むことを決意。全ての工程を手作業で行う伝統的な製造方法を約10年かけて修業し、平成24年に独立した。

森田屋の主力製品は、主に美術用などに使用される、畳一畳ほどの大きさの三六判と呼ばれる和紙である。手首のわずかな角度の違いや、気候の変化で出来栄えが変わるため、これまで培ってきた経験と研ぎ澄まされた感覚を駆使し、顧客からの要望に応じた仕上がり心をかけている。「技術の向上にゴールはない」と語る高昌さんは、納得のいく和紙づくりに日々努めている。

周桑手すき和紙のすそ野を広げるために

職人による品質の高い和紙づくりが受け継がれてきた周桑手すき和紙だが、これまで製品や情報を外部に向けて発信する機会が少なかった。そのことに着目したのが妻の美希さん。機械すき和紙には出せない、手すき和紙ならではの独特の温かさや柔らかさをより多くの人に知ってもらいたいと、積極的に外部との交流を図り認知度向上に努めている。さらに、生活に密着した製品を提案し

需要の拡大を図るため、和紙を使ったランプシェードの開発や住宅壁紙への活用、雑貨店とのコラボ製品の企画などを高昌さんと共に進めるなど、職人とは異なる新たな役割を担っている。昨年11月29日には、伊予銀行が開催した「いよぎんビジネスプランコンテスト」で周桑手すき和紙の新たな販売展開について発表し、スタートアップ賞にも輝いた。

手すき和紙森田屋では、現代の生活様式や最新の要素を取り入れ、活用を変化させていくことで、伝統工芸品としての周桑手すき和紙が次の世代につながることを考え、新しい取り組みにチャレンジするとともに、地域貢献を目指したイベントへの参加も計画している。

入居者募集のお知らせ

インキュベータ室・SOHO支援室で
新事業に取り組みませんか

サイクスでは、インキュベータ室・SOHO支援室に入居する企業や個人を募集しています。いずれの部屋も24時間利用可能で、インターネット回線が整備されているほか、あらゆる経営相談にお応えできる環境を用意しています。

■入居資格

- 新たに事業化に取り組もうとする方
- 新たな事業分野へ進出、研究開発に取り組もうとする方

■入居期間

- インキュベータ室 4年以内
- SOHO支援室 2年以内

■入居決定について

事業計画ヒアリングおよび審査の上、入居の可否を決定します。

■申込先・問合せ

部屋の仕様や入居申請などの詳細は、産業情報支援センターまでお問い合わせください。

TEL 0897-53-0010